

2008年5月1日

Vol.57

みみん みみん



【題字】 谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談のお相手、西出さんのお気に入り小物はアマニ・ヤ・アフリカさんが販売している、シマウマのポールベン。バナナの葉を使用したベンの質感や、ベンの滑りが良いとのこと。なにより、ベンの頭についているシマウマを見るたびに心が和むのが一番のお気に入りポイントだそうです。

■目次

- P2~3... 理事対談
- P4~5... せんだい・みやぎNPOセンターの事業から
- P5..... 多賀城市市民活動支援センター管理運營業務受託が決定
- P6..... 寄稿「全国にひろがれ、NPOぐるぐる+観光ツアー」 秋山三枝子さん
- 理事リレーコラム「私の市民活動10年」 木村正樹
- 新スタッフ紹介
- P7..... 活動ダイアリー
- ランチLive“パスタでも、おにぎりでも”第3回
- P8..... 新規会員・継続会員
- お知らせ、編集後記、連絡先等

理事対談

「NPOの実践現場を見て関わりを持つようなゼミを開いて

第2回目の理事対談は、東北大学大学院経済学研究科准教授の西出優子さんと常務理事の黒澤理事の対談です。実践と研究の二つの側面から市民活動に関わってきた西出さんと、市民活動と地域の連携をテーマに、前半は西出さんが仙台に来るまでの市民活動への関わりや研究職につくきっかけを、後半は3年前に東北大学大学院経済学研究科に設立された地域イノベーション研究センターや仙台で取り組みたい事をお聞かせいただきました。

■実践から研究対象へ

黒澤／西出さんは、大学卒業後はどちらかに就職したんですか？
西出／最初は、市民活動とは関係ない東京の法律事務所で働いていましたが、結婚を機に仕事を辞めました。夫が日本NPOセンターの設立当初からの会員で、設立記念パーティーと一緒に参加した際、私は今まで海外のNGOに目を向けていましたが、日本国内でもNPOというものがあり、社会のために市民活動を行っている人々が各地にいることに気がきました。自分が今いる所でも、何かできるのではないかと思い、半年間日本NPOセンターと構想日本(注1)でボランティアをしました。その時、夫のアメリカ留学が決まり、自分もアメリカの市民活動の現場を見てみたいと思い、2年間アメリカの大学へ留学することにしました。

アメリカではインターンやボランティアでNPOに関わり、日本に戻ったら自分もこういった活動をしたと思っていましたが、学生という立場でNPOと関わるうちに、大学と地域の連携に関心を持ちました。留学先では大学もその地域の市民として何ができるかが問われ、大学と地域の連携がすごく活発に行なわれていました。それを修論のテーマにして書いているうちに、現場を体験しながら研究することが面白くなり、日本に戻ってから研究を続けることにしました。

黒澤／アメリカではどんなNPOにインターンで関わっていたんですか？



ゲスト

西出優子
東北大学大学院経済学研究科
准教授

西出／大学の授業の一環として、NPOでのボランティアやインターンシップが行なわれていて、いろいろなNPOの中から自分で行く先を選び体験するというものです。約1年間、ユナイテッドウェイ(共同募金会)で、助成を受けている団体の力量形成のためのプログラム支援等を行ないました。また、貧困地域のまちづくりNPOで、子どもたちと放課後一緒に遊んだり、学ぶ楽しさを知ってもらうために大学訪問ツアーを行なったり、求職者の支援に関わりました。

黒澤／西出さんが渡米したのは、2000年頃ですよね？日本でも最近では、大学と地域の連携が言われていますが、アメリカだと当然のように行なわれてますよね。

西出／アメリカには、キャンパス・コンパクト(Campus Compact)(注2)という大学の地域連携や、NPOでの体験学習を推進している組織がありますが、そこに参加している大学は1,000以上あります。アメリカの大学は社会貢献や地域との連携が大学の評価の一部になっているところも多い状況です。大学のパンフレットにも、どんな社会貢献をしているかが掲載されています。政策的にも、特に90年代から若い世代を中心に多様な世代がボランティア活動を行なう事を推奨しています。

黒澤／日本でも少し前まで、学生のボランティア活動の義務化についての議論があったけれど、コーディネートまで含めてやらないと意味が無いと思います。

西出／若い頃の義務的な体験は、しっかりとコーディネートし意味づけを行なわないと、逆にボランティアに対する拒絶反応につながるケースもあります。強制的に参加させるのは、本来の目的からそれてしまう恐れもあるので、あくまでも自発的な参加を促すことが重要でしょう。

黒澤／もっと小さい頃から社会との繋がりを作っていき、中学・高校の卒業などの節目で「長期的にかかわってみたい」と思うように育てていかなければいけないのに、節目だからボランティアをしろというのは乱暴すぎます。

■ソーシャルキャピタルが豊かな地域は、NPO活動も活発

西出／大学が地域連携を行なうことの意義を考えたら、ソーシャルキャピタル(注3)、すなわち、地域の中での信頼やネットワークといったつながりが生まれることが重要だと思いました。私は、NPOがどうやって地域においてソーシャルキャピタルを生み出していくか、またNPOがどのようにソーシャルキャピタルを活用できるか、ということに研究と実践の関心があります。

私が福井県に住んでいた時に、豪雨災害が発生したのですが、福井では地縁組織がきちんと機能していると同時にNPOの活動が活発なため、住民が助けを求めやすく救援活動がしやすかったのです。ソーシャルキャピタルが豊かな地域は、NPOの活動も活発ですし、市民活動が活発な所はソーシャルキャピタルがより豊

いきたい」

かになっていく、という良い循環が出来ていると思いました。

黒澤／ソーシャルキャピタルのベースになっているのは、従来の地縁型組織なんですか？

西出／はい、重要な要素です。基本的には結束型と橋渡し型という2つのタイプがありますが、結束型は内向きな組織で、従来の地縁型組織のようにお互いの絆を深めますが、それが強すぎると他を排除する可能性は否定できません。それに対して、多様な人が集まっているNPOは、いろいろな組織や地域を繋げる橋渡しの役割を担っています。その両方が上手く機能することで、地域の力が高まっていくと考えています。

そのためにも、地域の信頼を得ながら活動を行なっていくという感覚をNPO側はもっと持つべきだと思います。

黒澤／その通りだと思います。更に、連結型という概念があるようですか？

西出／もともと開発援助の分野から出てきた概念なんですけど、主に力を持っていない人や団体が、政府や企業などの力を持っている人や団体にアクセスできるようにロビーイングをしたり、NPOが自治体から金銭的・非金銭的支援を得られるようなつながりや、地域での影響力を与える役割を担っています。

黒澤／当センターのような中間支援と同じ働きをするのでしょうか？

西出／そうですね。中間支援は、橋渡し型の役割があると同時に、他のNPOを支援するために多様な組織にアクセスし影響力をおよぼすという連結型の役割もあると思います。

黒澤／この概念は、当センターのあるべき姿を整理しているような気がします。

■NPOが雇用セクターとして機能していくには

黒澤／西出さんは仙台にきて1年を迎えましたが、これからどんな取り組みをしていきたいですか？

西出／1つは、2005年に東北大学大学院経済学研究科内につくられた地域イノベーション研究センターでの活動です。センターでは、いくつかのプロジェクト型教育研究プログラムを行なっています。私自身は、学生と一緒にNPOの人材マネジメントに関する現状や課題を調査し解決策を提案していくプロジェクトを立ち上げました。また、私がアメリカで体験したように、学生がNPOの実践現場を見て関わりを持つようなゼミを開いていきたいと思っています。

黒澤／当センターでも、インターンの受け入れを行なっています。また、過去には、学生をしながら非常勤として働いていたスタッフもいました。

西出／企業に入る前に、一度NPOに触れる機会を作りたいですね。

黒澤／最後の質問ですが、NPOが雇用セクターとして機能していくには何が重要だと思いますか？

西出／うーん、難しいですね。資金循環と人材流動化の仕組みをつくること。寄付文化をどう育んでいくか、ではないでしょうか。

黒澤／先ほどインターンの話をしましたが、NPOの活動に触れた人たちを増やしていく事で、そういった文化が作れるのかもしれないですね。

西出／地域に貢献しようという意欲のある若者は、NPOに興味を持ったとしても雇用条件を見ても企業や行政に就職してしまいます。新卒でNPOに入れるようにはどうしていけばよいのでしょうか。

黒澤／NPOに雇用された人が共働きで2人の子どもが育て上げられるような条件を提示できないといけないと思います。また、企業と競合して、仕事が勝ち取れるような高い専門性を確保する必要があります。そのためにも、雇用条件がアップされないといけません。

西出／そうですね。企業とNPOで人事交流の流れが出来てくると、変わるかもしれません。

紅邑／海外でも企業と比べればNPOの方が給与は低いが、日本ほど差は開いていないようです。事実、海外では企業セクターとNPOセクター、さらには行政セクターの人材の流動化が起きています。日本でもセクター間の人事交流が進めば、NPOも雇用セクターとして認められたということになりますね。その下地作りということで、宮城版キャンパス・コンパクトを一緒に作り出したいですね。今日はどうもありがとうございました。

(記録・編集：内川奈津子)

(注1) 構想日本：国や地域の政策をいずれの政党、業界からも独立の立場で提案し、その実現を目指す非営利の政策シンクタンク。

(注2) キャンパス・コンパクト：全米1,100以上の大学学長の連合。その傘下に約600万人の学生が所属し、大学と地域の連携や体験学習を推進している。地域社会の改善に関わることで、学生の学びを深め、学生が責任ある市民となるための教育を目指している。

(注3) ソーシャルキャピタル：社会関係資本(social capital)。協力的行動を活性化することにより社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴。お互い様の規範や人と人とのつながり等。

黒澤学
 せんたい・みやぎNPOセンター
 仙台市市民活動サポートセンター
 常務理事
 センター長



みやぎ公益活動 ポータルサイト“みんな”

6月、せんだい・みやぎNPOセンターは新しいインターネットサイトを始動させます。タイトルは「みやぎ公益活動ポータルサイト“みんな”」(通称:みんなポータル)。主に宮城県内で活動しているNPOの情報を、広く一般市民や企業に対して発信することを目的として、当センター公式ホームページ「minmin online」から分離して開設します。

■ CANPANと提携

「みんなポータル」は、日本財団の運営する「公益コミュニティサイトCANPAN」と提携し、そのシステムを活用して運用します。「CANPAN」はNPO活動などの公益活動に携わる人や、それらに興味のある市民全てに役立つ、さまざまな情報を発信しており、例えば、ブログの解説やメールマガジンの発行・企業のCSR情報などが無料で提供されています。現在では、月間訪問者数110万人、閲覧回数550万回を誇る日本最大規模の公益情報サイトとして成長し、大きな信頼を獲得しています。

■ 4つのメインコンテンツ

「みんなポータル」は、主に以下の4つのコンテンツを柱として展開します。

- ① 宮城県内のNPOが発信している
ブログの更新情報
- ② 全国および宮城県内の地元企業におけるCSR
(企業の社会貢献活動など)最新ニュースの配信
- ③ NPO情報ライブラリー
- ④ サポート資源提供システムからの
物品提供・助成等の成果情報など

これらの情報を提供することで、市民がNPOに対する理解と信頼を深め、さまざまな関わりや支援の輪を拡げていくことを目指しています。中でも「NPO情報ライブラリー(※)」は、社会からの信頼に応えうる、優れたNPOを紹介するデータベースとしてフォーマットを一新。また、宮城県内のNPO発信ブログの更新情報を24時間自動的にアップすることで、NPOへの共感や感動の輪を拡げていくきっかけ作りも実現していきます。

新サイトが提供するNPOの「信頼」と「共感」は、やがてNPOへの新たな「支援」を用意します。「みんなポータル」の新たな展開にご期待ください！(工藤寛之)

※宮城県内のNPOの経営情報を発信し、NPOの情報発信・公開を支援する仕組み。

アダプト・プログラム シンポジウム in 仙台

2月25日(月)ハーネル仙台3階松島にて、当センター企画・実施(主催:(社)食品容器環境美化協会(※))の「アダプト・プログラムシンポジウム in 仙台」が開催されました。当日は、79名の参加があり、12の自治体の方が参加してくださいました。またNPOや個人でまち美化サポーターとして活動している方や企業関係者の方の姿もありました。

■ アダプトはまちづくりのエース！

～アダプト・プログラムに学ぶ、市民協働の可能性～

当センターは、もともと仙台市のポイ捨てごみ問題に深く関わってきた経緯もあり、アダプト・プログラムを、市民・事業者・NPO・町内会など多様な主体と行政が、実践的に協働するための入門プログラムとして注目してきました。また、企業がもつとも参加しやすい社会貢献プログラムとしてのごみ拾いを、より深く学べる良い機会にもなると考え、(社)食品容器環境美化協会からの依頼に応えて、今回のシンポジウムの開催に協力することになりました。

■ 新しいまち美化手法＝アダプト・プログラムの提案

日本版アダプト・プログラムは1998年に四国で始まり、9年を経過した2007年12月現在、全国で300を超える自治体で導入されています。そもそも「アダプト(Adopt)」とは、「〇〇を養子縁組する」を意味し、「アダプト・プログラム」は、一定区域の公共の場所を養子にみたと、市民が里親となって養子の美化(清掃)を行ない、行政がこれを支援する仕組みです。つまり、市民と行政が協働を進める、新しい「まち美化プログラム」として、全国各地に広がり、「地域の美化」と「まちづくり」の成果をもたらしています。

■ 東北では、仙台市が始めて導入！

実際に東北地方では、2000年に仙台市が初めてアダプト・プログラムを導入。現在宮城県内では、県、仙台市、東松島市、七ヶ浜町が、東北六県でも、前述の他に12自治体で導入されているという現状で、まだまだ馴染みが薄い現状です。

また、まち美化というと、自治体では環境部局の取り組みが主流ですが、事例紹介として取り上げられた室蘭市のように担当課が市民活動推進課という動きも見られるようです。当日の、シンポジウムのなかでは、具体的にアダプト・プログラム導入の動きのある自治体から、まずは市民が主導になってまち美化によるまちづくりに取り組もうという声も聞くこともできました。今後もアダプト・プログラムを「協働入門ツール」として活用していくことを提案したいと思います。(青木ユカリ)

※(社)食品容器環境美化協会(食環協):1973年設立。飲料容器の散乱防止を中心とした、環境美化の推進に努めている公益法人

仙台市シニア活動支援センター事業 シニアアクティブフォーラム2008

去る2月9日(土)、「シニアアクティブフォーラム2008」を開催しました。主に、定年退職前後の50歳代後半以降の方を対象に、セカンドライフの多様性を知る機会を提供することで、より多くのシニア世代に、生き生きとしたセカンドライフを送るためのきっかけやヒントを得てもらうことが目的です。

■ 同世代や活動の先輩との 交流から生まれる可能性

講演会では、「定年退職前後のあなたの可能性」と題して、(有)地域環境デザイン研究所・所長の宮原博通さんにお話をいただきました。特に、山形県高島町での食と農を中心としたまちづくりの実践報告に興味関心を持った方が多く、地域の特色を生かした活動に参加する醍醐味をぜひ味わってみたい、という感想もありました。

また、シニア世代が中心となって活動している市民活動団体(下表参照)からの活動事例発表では、シニア世代の経験とスキルを生かしたさまざまな活動が紹介されました。定年退職後は、自分のできることで地域に貢献したいと考えるシニア世代にとって、セカンドライフの先輩たちの事例発表は良い刺激となったようです。

仙台市内には、シニア世代の活動の支援を行なっている施設・機関がたくさんあります。5つの施設・機関(下表参照)から、支援メニューの紹介をしていただきました。

フォーラムの最後は、交流会で締めくくりました。共感し合える「仲間」と出会い、ともに活動の喜びや楽しみを体験していくことで、より充実した日々が過ごせることを先輩たちが教えてくれました。今回のフォーラムがきっかけとなり、さらにもう一歩踏み出していくシニア世代の皆さんを、これからもしっかりと応援していきたいと思えます。(真壁さおり)

多賀城市市民活動サポートセンター事業

2008年4月より 管理運営の 受託が決定!

当センターでは、仙台市市民活動サポートセンターの管理運営業務、仙台市シニア活動支援センター運営業務、名取市市民活動サポートセンターの相談業務に加え、この4月より多賀城市市民活動サポートセンター管理運営業務の受託が、去る3月26日決定しました。

多賀城市では、2005年に多賀城市行革推進本部においてアウトソーシング実施基本プランを策定。2007年には多賀城市市民活動支援センター設置に向けての提言書が、公募市民で構成する市民活動支援センター設立検討委員会から提出されました。

提言に答える形で施設設置の準備が行われ、2008年2月に施設の管理運営者の公募が行われました。当センターでは、2月20日の理事会にて応募することについて協議・決定し、同月22日に開催された説明会に参加。事業を受託すべく申請書・事業計画書を3月13日に提出し、3月25日の事業計画を説明するプレゼンテーションに臨みました。

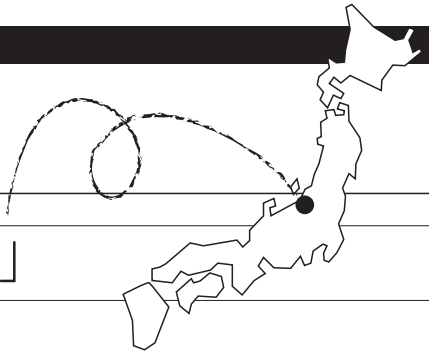
プレゼンテーションには、常務理事の黒澤と紅邑の2名が参加しました。5名の選考委員を前に申請書に基づく管理運営にあたっての基本方針、施設運営の方針、事業実施の方針および事業計画などについて説明しました。各委員からはスタッフの募集期間が短い十分な周知は可能か、新しい施設の利用者対象にどのように周知を図るのかといった質問がありました。その後、審査が行なわれ、私たちは控え室で結果を待つことに。再び審査会場にて委員会の審査結果を伺い、満場一致で当センターへの委託が決定したとの報告を受けました。(正式には、翌日の多賀城市長の決裁のち多賀城市より連絡がありました。)委員の皆さんからは生涯学習と市民活動の融合策を考えて欲しい、若い世代へのアピールに力をいれて欲しいといったご要望をいただきました。最後に、「窓口の対応は今日のプレゼンのように固くなく、親しみやすく活用しやすい雰囲気を作って欲しい」と一言。緊張してプレゼンを終えた黒澤さんは、思わず苦笑いしていました。(紅邑晶子)

■活動実践団体

- シニア元気笑学校
- (特活)シニアのための市民ネットワーク仙台
- 仙台シニアネットクラブ
- アマニ・ヤ・アフリカ
- (特活)日本脳トレーニング協会
- 子育て支援グランマ
- 賢和会ひろせグループ

■支援機関・組織

- 仙台市
シルバー人材センター
- 国民生活金融公庫
仙台支店
- (財)仙台市
産業振興事業団
- 仙台市シルバーセンター
- 仙台市
ボランティアセンター



●全国の支援センターから

「全国にひろがれ、NPOぐるぐる+観光ツアー」

(特活)くびき野NPOサポートセンター 専務理事 秋山三枝子さん

当センターでは一昨年から「ぐるぐるプロジェクト」なるものを始めています。せんだい・みやぎNPOセンターの地域資源循環の仕組みを真似たものですが、中でも「ぐるぐるNPOツアー」が人気です。市議会議員向けのツアーには約半数の議員が参加しました。バスで1日5~7団体の現場を回りますが、特に好評なのが手作り弁当とポニー牧場と森の幼稚園。NPOリーダーの熱い語りも、食べ物・動物・自然・子どもにはかないません。プロジェクトのきっかけは「NPO全国フォーラム2005北陸信越会議」開催での出来事。仙台を知らない人はいないけど、「上越ってどこ？」と問う人がほとんどで、少し凹みました。北陸新幹線が7年後に開通する予定ですが、(仮称)上越駅でNPOぐるぐる+観光ツアーのインフォメーションコーナーを常設し、うまいお酒と米と上杉謙信とNPOの現場を売り込みたい！とかなり本気に考えています。

この10年で知り合った各地のNPO支援センターが、同じように観光+NPOのおいしい現場ツアーを組んでくれたら、老後も楽しい！仙台には娘がいて年に何度か出かけるのですが、牛タンと松島と野球観戦以外も楽しみたいです。



●理事リレーコラム

「私の市民活動10年」 木村正樹 (理事)

今回の原稿依頼があり、10年前を思い返すと、当時のわたしは仙台市で国際交流活動や青年活動そして地域づくり活動を中心にしており、そろそろ活動エリアを地元の石巻市や矢本町(現東松島市)に切り替えようと思っていた時期と重なります。

93年に宮城県の青年団体の視察研修で米国のテラウェアを訪問したことがNPOを知るきっかけとなり、その後、日本JCでのNPO法の運動にかかわり、創設まもない「せんだい・みやぎNPOセンター」の活動に誘われたりと、気づくといくつものNPOの役員をしている現在ですが、99年には地元の石巻市に地域の仲間とともにNPOの支援組織を立ち上げることができ、今日のわたしの活動基盤ができました。

10年位前は、それまでの青年活動やまちづくり活動に限界を感じ、このままの活動スタイルではいずれ尻すぼみになってしまうのではと危機感をいただいていた。そんな時NPOというスタイルが現れ、劇的に社会を変えるツールではないにしろ、変えることができる可能性を秘めた、あやしい光を放つものが出てきたという感じがしたことを覚えています。

いま振り返ると、わたしの市民活動は24歳(今から25年も前の事ですが)のときに参加した、青年海外協力隊からスタートしたのかも知れません。当時と気持ちは変わらないつもりなのに、この頃は心身のほうがついていきません。次の世代への交代も視野に入れた活動へ転換していく時期に来ていますが、あと10年は第一線でがんばらなければならないかなと思う今日この頃です。

新スタッフ紹介

2008年3月に入社した新スタッフより、自己紹介と抱負を語っていただきました。

もう かずしげ
桃生 和成
出身:仙台

特技:たそがれること

昔、笠智衆という俳優がいました。映画「東京物語」での彼との出会いは桃生物語の始まり。彼のように不器用ながらも一所懸命がんばりたいと思います。謙虚な気持ちと出会いを大切に。はじめまして。桃生です。

活動ダイアリー

当センターのスタッフの市民活動風景を日記スタイルで紹介する「活動ダイアリー」。今回は、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会」の三井克さんの活動風景を覗いてみたいと思います。

定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会

商店街や定禅寺通りの人々が呼びかけ、1991年から実行委員会が立ち上がり「定禅寺ストリートジャズフェスティバル in SENDAI」がスタート。年々参加者が増え、昨年は707組が参加し72万人が足を運んだ。ジャズと銘打っているが、ジャンルは問わず、市民組織の実行委員会で運営されている

■某月某日(曇りのち晴れ) やっぱりファシリテーターの講座は必要かな？若い有能な実行委員が増えた事はとても喜ばしいのだけれど、以前にもまして会議の時間が長くなってきているなあ…せっかく素晴らしいアイデアが提案されてもそれをなかなかまとめきれないんだよね？そうそうそれだったらサポセン絡みで、部長クラスがファシリテーターの研修を受けてはどうだろう？短い時間で実り多き会議にしたいな。

■某月某日(曇りのち快晴) 陽気も良くなり、3月からジャズフェス実行委員にとって楽しいイベントが始まります。ジャズフェス当日に寄付をいただいた市民の方へ配っているミニ・ガンザ(フィルム容器で作ったマラカスのようなもの)作りが毎月最終土曜日に開催される。その作業後、お楽しみの「バー定禅寺」開店だ。担当事業部ごとに趣向を凝らした料理を持ち寄り、酒を酌み交わし、互いを労うと共に、9月のお祭りに思いを馳せるのです。

■某月某日(曇りのち雨) 委員長どこいったの?!なんと!これから本番に向けて佳境に入ろうって時に、実行委員長がよりによってネパールのアンナプルナという所に脱出。僕は実行委員になってまだ日が浅いので、一人ひとりのキャラクターをあまり詳しく知らないのだけれど、この委員長かつてはれっきとした日本山岳会のメンバーだったそうで、その健脚で山麓をトレッキングするそうです。期間は1ヵ月半。そりゃ良いけど、メールでもらったアドレス、どうやって使えって言うのかしら?「緊急事態ですから戻ってください!」って?お願いだから出来るだけ早いと帰ってきてください!(三井 克)

おいしい しゅんすけ
大石 俊輔

出身:静岡

特技:お茶の入れ方

静岡に18年、東京に6年、そして仙台に辿り着きました。北上の一途を辿っておりますが、寒いのは苦手な12月生まれです。好きな音楽、はっぴいえんど・山下達郎・Eagles・Radioheadなど。好きなアーティスト、岡本太郎と藤森照信。好きな作家、村上龍。よろしくお願ひします。

ランチLive

紅邑晶子

第3回

「パスタでも、おにぎりでも」

花ぐもりのランチタイム、待ち合わせたお店はなんと定休日。次なるお店「キャンティ・ヴォーノ」は、午後1時過ぎでも大賑わい。おいしいパスタランチでランチLIVE開始。

オフタイムは、どんな風に過ごしていますか?

連休にアウトドア活動をしようと思ってました。でも、このあいだ寒い日が続いて体調を崩して、ちょっと心配です。

この間サポセン利用者のイベントに出かけました。3回続けて関連する別々のイベントに出かけたら、毎回同じ人と出会って、どうなのかなって?

そういうイベント情報はどうやって手に入れていますか?

サポセンに届くチラシや口コミです。チラシを見て「アレっ!」と思うものは、ストックしておいて、そのうち3分の1ぐらいかな、出かけるのは。あとは、タイミングが合えばというかんじ。

いつやるかが問題。日程があえば出かける。

選ぶ基準は?

文化・文芸系。あとは、環境系かな。人権系も気になるけど、連続ものが多いので初心者には参加しにくい。

知り合いが居るところだと参加しやすい。人権系や男女共同参画関係とか。でも、こだわりがあるので、参加してちょっと違うなと思うと継続して出かけるのは難しい。

そうそう、コンサートに出かけたりもします。誕生日の自分へのプレゼントにとか。

大きな仕事が終わったら、頑張ったご褒美にイベントに出かけたりします。

意外とフツーに過ごすのも、オフの過ごし方かも。ストレス発散に掃除をしたり…

きれいになった部屋で過ごすと、身も心もスッキリしますよね!

掃除がストレス発散というお2人。わたしは掃除がストレスかもと思いつつ、にこにご笑って相槌を打っていました。

おおいし ちか
大西 千佳

出身:大阪

特技(必殺技):笑顔

大阪から参りました、大西千佳と申します。様々な人と出会い、繋がりながら、ひとりでは出来ない大きなことを成し遂げていきたいと考えています。前のめり過ぎてコケることもあります。温かく見守ってやってください。

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成19年度新規・継続会員 (敬称略・順不同、2008年2月1日～2008年3月31日)

(正会員)遠藤智栄、大滝精一、川村志厚、黒澤学、佐藤覚治、(特活)宮城県断酒会

(準会員)アグリ・ノーマライゼーションin秋保、片平たてももの応援団、楠喜博、高山雅子、津志田達雄、中村祥子、広岡立美

■企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

お知らせ



minmin

せんだい・みやぎ NPOセンター、 新ロゴマーク決定！

設立10周年を迎え、せんだい・みやぎNPOセンターのロゴが新しくなりました！このロゴは、「NPO」「行政」「企業」が一体となって動くプロペラをイメージし、この3つのチカラが風をおこし、社会を変えていくエネルギーを生み出してほしいという思いが込められています。

加藤哲夫の NPO経営相談

開催日:平成20年5月16日(金)
13:00～17:00

平成20年6月20日(金)(時間未定)

場所:せんだいみやぎNPOセンター

相談料:2,500円

(1時間単位、会員は500円引き)

※予約制です。

まずはお電話を！

連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ！

郵便振替:02260-3-16325

仙台銀行 中央通支店 普通 4094031

加入者:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

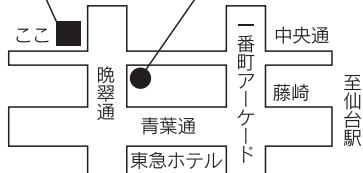
代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン

編集長:内川奈津子

編集班:紅邑晶子、三井克

発行日:2008年5月1日

デザイン:氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分

| 編 | 集 | 後 | 記 |

ランチLiveでは「オフの過ごし方」がテーマでしたが、オフではなく寝る前の習慣になりつつあるのが映画鑑賞。だいたい週に2本ほど観ています。昔は、映画なんてちっとも見なかったのに。これも年を取って趣味が変わったということ？(ウチカワ)

昨年9月の理事合宿で、当センターにはもっと「見える化」が必要ということになった。形から入ることも大切なので、新しいロゴマークを作った。事務所の看板もスタッフの名刺も一新。ちょっとしたCIだ。あつ、みんみんバードももっと露出させよう！(紅邑)

三寒四温も終わってこれからが本格的な春、巷じゃ寒曝し蕎麦が話題になっている。香りが強く、甘みがあってとても美味しいそう。近いうちに白鷹町にでも行ってみようかな？!(三井)